

## 28 鷲羽山山頂周辺の崩壊地(平成30年7月豪雨)

写真



解説

豪雨によって土石流が発生し、溪流末端の氾濫区域にある家屋5軒が全壊した。地質は中生界白亜紀の花崗岩類に分類されるが、風化が著しく、崩壊地においても岩盤を確認できない。流出土砂はほぼ砂のみで、土石流流下区間の露出部もすべて砂である。いたるところにパイピング孔が確認できる。崩壊位置は鷲羽山の山頂付近にあり、写真は崩壊地奥の尾根の向こうに瀬戸大橋が確認できる。

(日時：平成30年8月18日撮影、

座標：34度26分19.43秒, 133度48分38.48秒)

提供者 氏名 佐藤 文晴 所属 岡山理科大学